

文教委員会での質疑

7月20日(火)、「杉並区教育ビジョン2022(案)」について報告を受けました。

【岩田の質問】

全体の印象として、「**子供の成長を支えていく立場としての、大人や先生の責任**」についての言及が少し弱いのではないかと。

【教育長の答弁】

教育である以上、教と育があるわけであって、教という教える部分と育という育てる部分、このバランスというのは絶対大事である。教育に関わる大人が子供たちを導いていく責任は十分感じながらビジョンを進めてまいりたい。



「杉並区教育ビジョン2022(案)」では、「子どもの思いを尊重する」ことが、「一人ひとりが教育の当事者として心がける視点」の一つ目に挙がっています。

地域の大人のひとりとして、「**子供の思いを尊重しながら、大人としての責任を果たしていく**」という姿勢で、地域活動等において子供達と関わっていきたいと思います。

地域での活動

高校生「探求活動」への協力

高校生の「探求活動(総合的な探求の時間)」のサポートとして、6月28日(月)に区内私立高校に通う高校生と、7月26日(月)に区内都立高校に通う高校生と、ZOOM(オンライン会議システム)を通じてミーティングを行いました。



高校生から提示された探求活動のテーマは、「政治の透明性/住民の声を行政に反映させる方法」と「杉並区における、自転車安全走行のための施策」。主に高校生の質問に答える形で議論を行いました。

普段接点の少ない高校生の考え方に触れることは、私自身にとっても刺激になります。機会があれば、今後も協力していきたいと思っています。

応急手当普及員

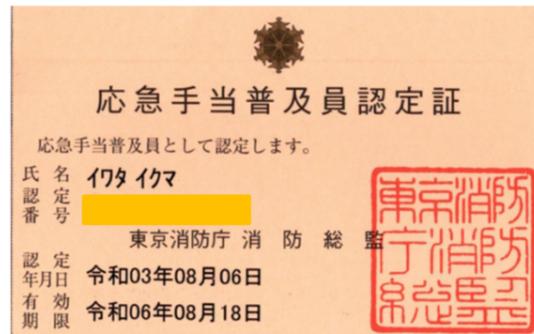
8月6日(金)、「**応急手当普及員再講習**」を、**麴町消防署**において受講しました。当日は、密を避けるため定員の半分である20名で実施されました。



応急手当普及員の認定を受けて以来、3年に1度、更新のための再講習を受講しています。

いざという時に少しでも落ち着いて行動できるよう、今後も継続的に受講していきたいと思います。

なお、新型コロナウイルス感染症流行下における救急蘇生法として、成人の心停止に対しては、人工呼吸を行わずに胸骨圧迫とAEDによる電気ショックを実施する旨の指針が、日本救急医療財団から示されております。



次回の定例区議会(令和3年第4回定例会)は、11月15日(月)開会予定です。

区政や岩田いくまに対する質問・ご意見・ご要望をおきかせください。

FAX:03-3247-8660 もしくは E-Mail:ikuma@gakushikai.jp



杉並区議会議員(無所属)

岩田いくま 区政報告

第72号(令和3年秋号)

発行:岩田いくま 〒168-0082 杉並区久我山5-24-30-103
TEL/FAX;03-3247-8660 E-Mail;ikuma@gakushikai.jp
HP;http://ikuma-iwata.net (←毎日更新しています!)

岩田いくま(生真)略歴:昭和46年(1971年)生。都立西高、東京大学卒。外資系コンサルティング会社勤務を経て、平成15年5月より杉並区議会議員。令和元年5月より5期目。
趣味:バレーボール(大学時代は母校で部活動のコーチを行う)、読書。
家族:妻、長男(18歳)、長女(16歳)、次男(13歳)。

P.1 新しい「杉並区基本構想」

P.3 決算特別委員会での質疑

P.2 令和2年度決算の分析

P.4 文教委員会での質疑/地域での活動

新しい「杉並区基本構想」を決定

～ 令和4年度からの、杉並区政の“羅針盤” ～

新しい「杉並区基本構想」が、10月15日(金)の区議会において、**賛成多数で可決**されました。私自身、昨年9月以降「基本構想審議会」の委員として審議会及び第3部会(対象分野:子ども、学び、スポーツ、文化)に11回出席して答申策定に関わっており、議案として提案された「**杉並区基本構想**」に**賛成**しました。

新しい「杉並区基本構想」とは?

令和4年度からの、概ね10年程度の杉並区の将来を展望する「羅針盤」。

新しい「杉並区基本構想」を貫く3つの基本的理念

○認め合い 支え合う ○安全・安心のまち つながりで築く ○次世代を育み 引き継ぐ

新しい「杉並区基本構想」において、杉並区が目指すまちの姿

“みどり豊かな 住まいのみやこ”

新しい「杉並区基本構想」において示されている、その他の内容

○防災・防犯 ○まちづくり・地域産業 ○環境・みどり ○健康・医療 ○福祉・地域共生 ○子ども ○学び ○文化・スポーツ の8つの分野についてそれぞれ将来像を示し、その実現のための取組の方向性や重点的な取組が示されています。

また、区政経営の基本姿勢として、○協働 ○デジタル化 ○区政経営改革 に関する基本姿勢が示され、“**区民等と共に進捗状況や達成度を確認しながら、実現を目指して取組んでいく**”ことが示されています。



他委員による修正案の提案に対し、質疑をしている時の様子



新しい「杉並区基本構想」については、**公募区民を含めた42名**で構成される基本構想審議会において、**1年以上の年月をかけて議論**がなされました。

議会での審査は、「基本構想に関する特別委員会」を新たに設置して行いました。

基本構想は、「区の最上位の計画であり、区政運営の指針」となるものです(杉並区自治基本条例第14条)。今後は、基本構想に基づいて区が別途策定する総合計画等が、基本構想に沿っているか、しっかり確認していきたいと思っています。

令和2年度決算

令和2年度杉並区一般会計決算が、10月15日(金)の区議会において、賛成多数で認定されました。
私は、財政面では「5大ルール」が全て守られていたこと、業務執行面では目標を達成した施策指標の比率がコロナ禍の影響を考慮すれば上向きと判断できることから、賛成いたしました。

決算分析:判断①<財政面>

令和元年度から適用された「財政健全化と持続可能な財政運営を確保するためのルール」は、下記の5つです。

ルール①:財政調整基金の年度末残高350億円維持

<理由>大規模災害や経済事情の著しい変動等による減収に備えるため。

ルール②:施設整備基金に40億円積立

<理由>将来の区立施設の改築・改修需要に備えるため。

ルール③:赤字区債を発行せず、建設債についても必要性を十分検討して発行

<理由>区債(借金)残高を適正水準に維持し、将来世代に過度な負担を残さないため。

ルール④:行政コスト対税率等比率^(*)が100%以内

<理由>財政の弾力性を保持するため。
(*1)行政コスト対税率等比率…税率等の財源に対する行政コストの比率。

ルール⑤:債務償還可能年数^(*)が3年以内

<理由>将来にわたって健全な財政運営を持続していくため。
(*2)債務償還可能年数…業務活動収支の黒字分を実質債務の償還に充当した場合に、何年で償還できるかを示す値。

財政調整基金の年度末残高が大きく減少したこと(前年度比約50億円減)や、行政コスト対税率等比率が悪化したこと(前年度比3.3%上昇)等、留意すべき点はあります。しかし、新型コロナウイルス感染症対応に追われた1年であったことを考えれば、「財政健全化と持続可能な財政運営を確保するためのルール」全てが守られたことは、一定の評価をしたいと思います。

決算分析:判断②<業務執行面>

総合計画(平成24年度~令和3年度)では、事業の進捗状況を図るために、各施策指標^(*)に対して各年度の目標値を設定しております。令和2年度の達成状況は、若干改善しました。

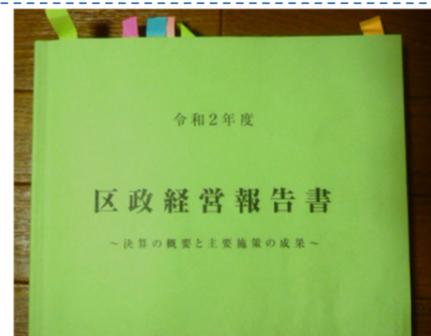
(*1)施策指標…当初は73項目。現在は86項目。なお、令和2年度は、コロナ禍の影響で実績値が取得できないものもありました。

令和2年度の達成状況は、絶対値としては未だ満足できる水準ではありません。ただし、コロナ禍の影響を受けた18の指標のうち、半分程度は令和2年度実績値や過去の実績から見て、コロナ禍がなければ目標値を達成していてもおかしくはなく、これを加味すると、40%を超えていました。

なお、初年度である平成24年度以降、一度も目標値を達成したことがない指標が10以上存在します。決算特別委員会では、これらの施策について取り上げ、総合計画最終年度の残り半年、しっかりと目標達成意識を持って取り組むよう求めました。

目標を達成した 施策指標の割合

令和元年度	令和2年度
31.0%	33.3%



総合計画の進捗状況が記された決算資料

決算特別委員会での質疑

9月30日(木)~10月12日(火)、決算特別委員会が開催され、10月1日(金)、4日(月)、5日(火)、6日(水)に質問者として登壇しました。以下、その一部を取り上げます。

* 決算特別委員会の様子は、杉並区議会公式ホームページの委員会録画放映(下記)でご覧いただけます。

http://suginami.gijiroku.com/voices/g07_Video2_Search.asp

【質問でとりあげたテーマ】

1日	14回に及んだ補正予算の全体像
	用地会計 施策指標の目標達成率(P.2参照)
4日	新型コロナウイルス感染症対策本部及び医療崩壊阻止緊急対策会議 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行対応
	エアロゾル空気感染対策
5日	行政計画の統廃合 補正予算(中小企業支援)の執行状況
	目標達成への取組(P.2参照) (防災、男女共同参画、町会・自治会)
6日	商店会補助金チェック体制の整備 国民健康保険事業会計等特別会計
	補正予算(子どもショートステイ)の執行状況 目標達成への取組(P.2参照) (環境、高齢者施策、障害児支援、子育て支援)

【商店会補助金チェック体制の整備】

【質問の背景】

令和元年度、当区において、商店会補助金不正受給が判明しました。令和2年度は、再発防止に向けた取組の初年度であることから、補助金執行の適正化に向けた区取組について確認しました。

チェック体制の整備として、
①複数職員による審査
②税理士による点検
③税理士を講師とする職員研修の実施

に取組んだ旨、答弁を得ました。区政運営に課題が生じた場合、その時の対応をチェックするだけでなく、その後の取組にもしっかりと注意を払い、継続的な視点で区政のチェック機能を果たしていきたいと思っております。

【補正予算の適切性】

【質問の背景】

令和2年度の一般会計歳出総額は約2,594億円であり、令和元年度の約1,987億円と比べ、約607億円増加しました。これは、補正予算が計14回編成され、新型コロナウイルス感染症対策として約651億円(そのうち、特別定額給付金の給付が約578億円)を活用したことが、その大きな要因となっております。



質疑の中では、まず1日に補正予算全体に対する評価を確認し、5日及び6日に執行率が比較的低かった個別の施策について、理由等を確認しました。

年間14回の補正予算編成は異例のことですが、新型コロナウイルス感染症対応として、概ね適切なものであったと判断しております。

なお、補正予算を専決処分^(*)する自治体もある中、当区では全て議会審査に付されました。この点は、率直に評価をしております。

(*1)本来、議会の議決を経なければならない事柄について、自治体の長が議会の議決を経ずに自ら処理すること。

【エアロゾル空気感染対策】

【質問の背景】

新型コロナウイルス感染症対策としては、飛沫感染対策としてのマスク着用やお互いの距離確保、接触感染対策としての手指消毒がよく取り上げられます。

一方で、これから気温が下がると、室内の換気が不十分となり、エアロゾル空気感染の増加も懸念されます。



質疑では、エアロゾル空気感染に対する杉並区の認識や、区役所等における対策について確認しました。

あわせて、換気の適切性を測定するCO2モニターを設置箇所の増強について、今後の流行状況に応じて検討するよう求めました。